

児童朝会 校長の話 11月30日 12月1日



先週の水曜日、三代達也さんが浅草小学校に来てくださいました。お会いできて本当によかったですね。

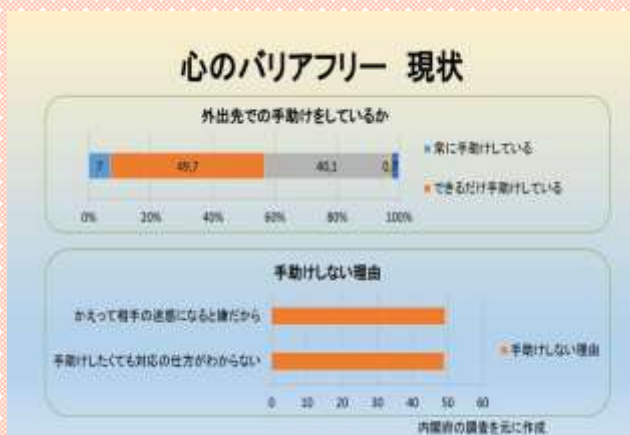
三代さんは「世界の中では、日本はバリアフリーが進んでいる国だ」とおっしゃっていたので調べてみました。

1日に利用する人が5000人以上の駅や空港、バスターミナルなどの施設について、18年前と7年前を比べると、点字ブロック・段差をなくす・障がい者用トイレの設置が急激に進んでいます。点字ブロックは100%に近づいています。ただし大きな施設に限っていますから、どこでも整っているとは言えませんね。



そして三代さんは、施設が整っていない中でも一番のバリアフリーは人だとおっしゃっていました。段差があっても声をかけて車椅子を運んでくれる人がいれば、段差は障壁にはな

りません。相手の気持ちになって「困っていないかな」「手伝うことはないかな」と声をかけることが大切だと教えてくださいました。日本の人たちは声かけをどのくらいやっているのでしょうか。こんな資料がありました。「外出先で障がい者や高齢者などに手助けをしたことがあります



か？」の質問に「常に手助けしている」と答えた人は 7%、「できるだけ手助けしている」と答えた人は約 50%。半分以上の人は手助けしようとしています。しかし 43%の人はできないでいます。理由は「かえって相手の迷惑になると嫌だから」「手助けしたくても対応の仕方が分からない」と答えています。三代さんがお話しなさった通り、一步踏み出す勇気をもって、相手の気持ちになって声を出せたらいいのですが。



私は三代さんと一緒に時間を過ごす中で、気付いたことがあります。学校に到着して校長室にいらっ
しゃいました。手を洗うのは大変だろうと思って
「消毒液を使いますか？」と机の上に置きました。
すると「手にかけてくださいますか。」と言われまし

た。三代さんは手も不自由でした。気が付かずに置いてしまっ
て申し訳なかったと思いまし

た。講演会が終わって体育館から退場する時、三代さん
は花束を持っていました。膝の上に置けば大丈夫かなと
思っていたら「花束を持ってくださいますか」と言われ
ました。花束は車椅子を動かすのに邪魔だったんだな
と、気が付かず申し訳なかったと思いました。その後校



長室で給食を食べました。献立はココアパン、ジャガイモのグラタン、オニオンスープで
した。スプーンとフォークがあるので大丈夫かなと思っていたら「牛乳を開けてストローをさ
してくださいますか」と言われ、あっ牛乳に気が付かなくて申し訳なかったと思いました。
初めのうちは三代さんに「～してください」と言われると申し訳ない気持ちでいましたが、
三代さんが言うてくださることで、何をお手伝いすればよいか分かって、一緒にいる時間が

楽しくなりました。「～してください」と言ってくれることは、とても有り難いことだと気が付きました。

自分が困っているときや助けて欲しときは「～で困っています」「～してください」と言えることが、理解し合うことにつながります。そして人が困っていそうなときは、自分の事として考えて「どうしましたか?」「～しましょうか?」と声をかけることで人の役に立つことができます。声を掛け合うことが障がい者や高齢者に限らず、全ての人にとって心の壁を取り払うバリアフリーになると思います。

私たちは三代さんに教えていただいたことを大切に、誰に対しても声を掛け合って生活していけたらいいなと思います。

